

〈研究ノート〉

幼児の着脱衣行動に関する考察  
—家庭での観察記録から—

竹 下 真由実

Mayumi TAKESHITA : A Study on Children's Behavior of Putting on and Taking off Clothes  
—From the Observation Records at Home—

鳥取短期大学研究紀要 第68号 抜刷

2013年12月

〈研究ノート〉

## 幼児の着脱衣行動に関する考察 —家庭での観察記録から—

竹 下 真由実

Mayumi TAKESHITA : A Study on Children's Behavior of Putting on and Taking off Clothes  
—From the Observation Records at Home—

幼児の基本的な生活習慣の「着脱衣」に注目し、家庭での入浴時における着脱衣行動の様子を観察、記録した。観察記録を通して、着衣より脱衣の行動自立が早いこと、ボタンの留め外しの意識付けは1歳後半でも可能なこと、子どもが同じ発言や行動で要求を示したとしてもその要求内容はその時の状況で異なること、着脱衣行動には主な保育者や家族、周囲の環境が深く影響していること、子どもは着脱衣の動作のみでなくその前後の行動も意識していることが考えられた。

キーワード：基本的な生活習慣 着脱衣行動

### 1. 問題の所在

一般に、子どもの基本的な生活習慣とは、食事、睡眠、排泄、着脱衣、清潔の5習慣のことである。幼稚園教育要領、保育所保育指針では「健康」の領域において保育の「ねらい」や「内容」で子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けることが目標とされている<sup>1),2)</sup>。

基本的な生活習慣が身に付くことは、すなわち子どもたちが「自分でできるようになる」ことでもある。スプーンや箸など道具を使って、あるいは手掴みで自分で食事をする(しようとする)、保育者(保護者、保育士など)から諭されたり、眠くなれば自分から布団に入り眠る(眠ろうとする)、排泄の告知や自分でトイレへ行く(行こうとする)、といったように、今までは保育者の手を借りなければできなかったことを自分ですることであり、それらが確立するまでの過程として、自分でしようとする行動や言動が見られることでもある。もちろん、その背景には子どもの身体器官、運動機能の発達、手の巧緻性の発達

などとの関連を経て確立されるが、基本的な生活習慣を身に付けることができれば、子ども自身の快適な生活へつながる。また、「自分でできるようになる」ことで、子どもは達成感や自信、やる気を感じることが出来る。これは子どもの発達過程において非常に重要なことである。

近年の保育現場、家庭においては、食事、排泄、睡眠の生理的なものが重視されているのが明らかである。しかし、福田(2005)は、小学校1年生の通学服(私服)の着衣形態と着衣の乱れ、着用能力について調査を行った結果、着脱行動が身に付いていない児童が少なからずあることを明らかにしている<sup>3)</sup>。食事における欠食や偏食といった問題は周知されていても、着脱衣に関する問題はあまり理解されていない。

幼児の着脱衣に注目する際、まず衣服の役割については身体の代謝や温熱、発汗の調節、身体動作の支持抑制といったような身体保護や動作の補助となる面と、自信や自己表現といった精神的な価値を意味する面とが挙げられる。前者は特に、「衣服内気候」という言葉を用い、その環境を快適に保つことが衣

服着用の目的と考えられている<sup>4)</sup>。

幼児期における衣服の役割として一番大きなものは、やはり身体の保護である。幼児期は活動量が多いが注意力は散漫であり、大人と比較して怪我をする確率は非常に高いが、日常生活で考えられる多少の擦り傷、切り傷は衣服で防げることが多い。次に、幼児期は新陳代謝が活発で発汗が多いため、吸水性、吸湿性に富んだ素材を使った衣服を着用することで、衣服内気候を快適に保つことが可能である<sup>5)</sup>。

また、衣服の着用による保温の効果もあり、気候や気温に合わせた衣服の着用をすることにより、体温調節の補助的役割を担うことができる。

さらに、着脱衣を行うことは、幼児の適切な生活リズムを確立する一助となる。起床後の着替え、食事の際のエプロン着用、午睡時、午睡からの起床時の着替え、入浴時、就寝時といった生活の流れにおける着替えや、遊びや活動に伴う着替えなどを行うことにより、生活リズムを整えることができる。特に、起床時の着替えは目覚めを促進し、就寝時の着替えは心地よい眠りへの導入を促すとされている<sup>6)</sup>。また、着脱衣を行うことで子ども自身の達成感や自信が得られ、着脱衣の動作によっては、手指を操作する力を高めることができる。

以上のように、幼児期での着脱衣は様々な意味、役割を持つ。着脱衣は生活の上で欠かせないものであり、適切に行えば快適な生活を行うことへつながる、重要な習慣である。

基本的生活習慣に関しては、長年、調査研究が行われており、日本で最初の基本的生活習慣の自立標準に関する調査は山下俊郎が1936年に行ったものとされている<sup>7)</sup>。その27年後、西本脩が1963年に山下調査の再検討を行い<sup>8)</sup>、さらに1987年には西本望が先行研究との比較調査を行っている<sup>9)</sup>。近年では、谷田貝・高橋が2003年に山下調査との比較を行っている<sup>10)</sup>。なお、山下(1936)、西本(1963)、谷田貝・高橋(2003)は主な保育者である母親へ口頭で質問し記録用紙に記入する面接法を取っており、西本望(1987)は質問紙を主な母親へ配布する

質問紙法を取っている。以上4点の先行研究の、特に着脱衣に関する部分の自立標準を表1に示す<sup>11)</sup>。

前述のように、幼児期での着脱衣は重要な習慣であるが、先行研究からは子どもの着脱衣習慣の自立の過程は見えても、具体的にどのような動きで、どのような衣服の着脱を行っているのかは見えてこない。近年は、衣服の形状、デザインも多様化しており、先行研究との比較調査からでは子どもの着脱衣習慣をはかることは難しいのではないだろうか。

子どもたちの生活の場である保育現場や家庭において、着脱衣習慣を子どもたちがどのように確立しているのか、また、子どもたちの着脱衣習慣確立のために、保育者はどのような効果的な支援を行うことができるのだろうか。以上について追求するためには、まず子どもの着脱衣行動の様子を知ることが必要であると考え。そこで、本稿ではより具体的な幼児の着脱衣行動の様子を探ることとした。

## 2. 調査の概要

### (1) 目的

子どもの基本的生活習慣に関する調査は、長年行われているが、その多数が主な保育者(母親)へのアンケート調査、聞き取り調査によるものであり、実態調査を行ったものは少ない。そこで、本研究では、子どもの基本的生活習慣の着脱衣に注目し、実際に家庭での着脱衣の様子の観察記録からその実態を探ることを目的とする。

### (2) 対象児

A男(1歳7か月)は、歩く、走る、飛び跳ねるといった動作がスムーズにでき、ブロック遊びなど手指を使うおもちゃ遊びにも興味を示す。日中は保育園で過ごす。家庭での主な保育者は母親であり、母親からの問いかけに「うん」、「いや」といったような返答をし、言葉でのコミュニケーションが取れ始める。「かーさん」、「とーさん」、「めっ、めっ」、「～する」といった発語の他に、大人の話す言葉を

幼児の着脱衣行動に関する考察

表1 基本的な生活習慣（着脱衣の行動）の自立標準について

( ) は調査年

年齢	山下 (1936)	西本脩 (1963)	西本望 (1987)	谷田貝・高橋 (2003)
1 : 0				
1 : 6			ひとりで脱ごうとする	ひとりで脱ごうとする
2 : 0	ひとりで脱ごうとする	ひとりで脱ごうとする くつをはく	少し直せば帽子をかぶる 手伝えばパンツをはく 靴をはく ひとりで着ようとする	ひとりで着ようとする
2 : 6		ひとりで着ようとする	パンツをはく	靴をはく 帽子をかぶる
3 : 0	くつをはく	帽子をかぶる	くつのとめ金をかける 帽子をかぶる	パンツをはく
3 : 6	ひとりで着ようとする	パンツをはく くつ下をはく	靴下がはける	前ボタンをかける 両袖をとおす 靴下をはく 脱衣の自立 着衣の自立
4 : 0	帽子をかぶる 前のボタンをかける パンツをはく	前のボタンをかける ひとりで脱ぐ 両袖をとおす	手伝いがなく靴下がはける 前のボタンをかける 前のホックをかける 手伝いなくそでを通す 両そでをとおす 手伝いなしに脱ぐ	
4 : 6	両袖をとおす くつ下をはく	ひとりで着る	手伝いなしに着る	
5 : 0	ひもを堅結びする ひとりで脱ぐ	タイツをはく		
5 : 6		ひもを堅結びする	そでのホックをかける 肩のホックをかける 肩のボタンをかける 脇のボタンをかける 脇のホックをかける	
6 : 0	ひとりで全部着る			
	※乳幼児期に形成されていない項目		そでのボタンをかける 後のボタンをかける 後のホックをかける 紐を前で堅結びにする 前で花（蝶々）結び 後で堅結び 後で花（蝶々）結び 靴下留めをとめる 少し直せばタイツをはける タイツをはける	紐を前で結ぶ（8歳）

すぐに真似をしようとする様子も見られる。また、食事や遊びの際、「じぶん」、「じぶんで（する）」といった発言と自分でしようとする行動も見られる。

### (3) 調査方法

平成 25 年 2 月 26 日（火）～3 月 19 日（火）（2 月 27 日を除く）の入浴時。記録期間のうち、1 日は対象児の体調不良により入浴をしなかったため、記録は 21 日分である。期間設定の理由は、対象児の月齢も理由の一つであるが<sup>12)</sup>、上記の期間は気温の変動が少なく、着衣内容（衣服の組み合わせ）がほぼ毎日同じためである。入浴時を選択した理由は、時間帯が毎日同じであり、入浴前には必ず脱衣を、入浴後には着衣を行い、毎日同じ行動のくり返しと考えられるためである。また、記録方法は記録用紙への記入である。試行的にビデオ撮影を行ったが、対象児の意識がビデオへ行ってしまう、日常とは異なる様子が見られたため、ビデオ撮影による記録は行っていない。

### (4) 留意点

調査時は対象児の着脱衣の様子と、保育者の支援とを記録した。保育者の支援としては、対象児の動機づけになるような声掛け、着脱衣の支援である。その際留意した点は、対象児自身の「やってみよう」という意欲を阻害しないことや、特に着脱衣に時間がかかる場合は衣服を身に付けない時間が長くなってしまい、体が冷えるなど体調に影響を及ぼす恐れもあるため、対象児ひとりではできないときは無理をさせずに手伝うこと、などである。また、衣服の呼称については、紙オムツは「パンツ」、肌着は「シャツ」、トレーナーなどは「フク」、ズボンは「ズボン」、プラスチック製のスナップボタンは「ベッチン」、それ以外のボタンは「ボタン」とした。

## 3. 結果および考察

記録内容を表 2 に示す。

### (1) 脱衣

入浴前、つまり脱衣時の着衣内容としては、紙オムツ、長袖肌着またはタンクトップ型肌着、トレーナー、長ズボン、気温によっては、肌着とトレーナーの間に薄手の長そで T シャツを着ている日もあった。

調査期間を通し、脱衣の様子について、トレーナー、肌着については、児ひとりでの脱衣は難しく、保育者が両袖を引っ張り腕を袖から抜き、頭からトレーナーを抜く、または両袖を引っ張りそのままの流れで頭から抜く、といった動作が全てであった。保育者の「ばんざい」や、「服を脱ごうか」といった声掛けで自発的に手を上げたり保育者に向かって両手を出してくる様子があった。また、一日だが、保育者が肌着の片方の腕を脱がすと、もう片方の腕は自分で袖を引っ張り、そのまま頭まで肌着を引っ張って脱いだことがあった。

ズボンについては、自発的に前腹部からズボンのゴム部分に両手を入れ、下までずり下ろそうとすることが多かったが、太ももまで下げることもあれば、足首まで下ろせることもあった。両足首までズボンを下ろすと、保育者の肩や壁につかまり、片方ずつ足を上げてズボンから足を抜く様子が多く見られたが、床に座り、自分で両足首からズボンを引っ張って脱ぐこともあった。また、前腹部ではなく、腰や横腹から手を入れてずらそうとする、両足首までズボンを下ろすと床に座り、自分で両足からズボンを引っ張って抜くといった日もあった。保育者が声掛けをせずとも自らズボンを脱ごうという姿が見られた日もあったが、保育者が自分で脱ぐかどうかを児に問いかけ、そして自ら脱ごうとする、という日が大半であった。

紙オムツについては、ズボンと同様の脱衣の流れであることから、自ら脱ごうとする姿が見られることが多かった。また、ズボンより裾丈が短く下ろしやすいく、排尿をしているため紙オムツに重さがあることなどから足首まで下ろしやすく、ズボンよりも自ら脱ごうとする様子が多く見られた。

幼児の着脱衣行動に関する考察

表2 着脱衣記録

★対象児の様子 ○保育者の支援

日	対象児の脱衣時の機嫌	脱衣内容	脱衣の記録	着衣内容	着衣の記録
1日目	良	長袖肌着 肩スナップボタン式トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	○ズボンを脱ぐ際に、「自分でぬぐ？」と聞いた。 ★「うん」と答え、左手で腰の左側の部分に手を入れて脱ごうとした。同じように右側もずらし、足首まで両方ともずらすことができた。 ○「パンツは？」と聞いた。 ★「うん」と答えるが、他のこと(洗濯機)に意識がいかってしまい、 ○保育者が紙オムツを脱がせた。	長袖肌着 前開きボタン式 パジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	○肌着、紙オムツは保育者が着せた。 ○「パジャマのボタンをする？」と聞くと、 ★「うん」と答えるが、留め方がわからなかったのか保育者へ委ね、 ○保育者が「ボタンはこう留めるんだよ」と話し、見せながら留めた。 ★ズボンを履く際は、座った状態で足を投げ出し、保育者が履かせやすいよう素直に足を通した。 ○立たせ、保育者の肩に掴ませた状態で、「上げるよ」と言いながら保育者が腰までズボンを上げた。 ○「ベストを着ようね」と声をかけ、袖を通させ、「ベッチンするよ」と留める様子を見せると、 ★スナップボタン部分に手を出してきた。
5日目	悪	長袖肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	★機嫌が悪く、脱衣所に入る時から嫌がる様子があった。 ○「脱いでお風呂に入ろう」と保育者が声をかけると少し落ち着き、上衣は嫌がらず、保育者がスムーズに脱がした。 ○紙オムツに手をかけると、 ★「かーさん、めっ、めっ」と言って自分で腹から両手を入れ、両膝まで下ろし、そのまま足まで下ろした。	長袖肌着 肩スナップボタン式パジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	★自分から着ようとする様子はないが、保育者の着させようとする動きに合わせて、手を上げたり、足を上げたりしてスムーズに着衣をした。
8日目	悪→良	長袖肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	★最初は機嫌が悪いが、 ○「ズボン脱ぐ？」と聞くと ★「うん」と言って腹から手を入れてひざ上まで下ろしたが、それをまた腹まで上げ、その動きを2回ほどくり返し、「かーさん」と言った。 ○「かーさんがするの？」と聞くと ★「うん」と言い、 ○保育者が足まで下ろした。 ★紙オムツもズボンと同様に、自分で下ろして上げてを2回ほどくり返し、また「かーさん」と言った。 ○紙オムツも保育者が足まで下ろし、脱がせた。	タンクトップ型 肌着 前開きパジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	★脱衣所で体重計にしばらく気を取られていたが、 ○「パンツ履くよ」と声をかけると ★保育者の肩に掴まり、片足ずつ上げ、紙オムツに足を通した。ズボンも同様に足を通し、 ○保育者が腰まで上げた。肌着を着せ、パジャマを羽織らせ、「ボタンはする？」と聞くと ★「うん」と言って両手でボタンとボタン穴を触るが、しばらくすると近くにあったおもちゃに意識が行ってしまい、 ○保育者がボタンを留めた。
9日目	良	タンクトップ型肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	○「服を脱ごうか」と言うとき ★機嫌よく、ズボンの腹から両手を入れ、膝まで下ろすと床へ座り、自分で両足からズボンを抜いた。 ○肌着は保育者が頭から脱がせ、「パンツは自分で脱ぐ？」と聞くと ★「うん」と言い、ズボンと同様に紙オムツの腹から両手を入れ、一気に足首まで下ろし、紙オムツから手を離して両足を立った状態で抜いた。紙オムツをくるくると巻いて別室にある紙オムツ用ゴミ箱へ捨てに行こうとしたので、 ○「今日はここがいいよ」と言って洗面所にあるゴミ箱を示すと ★そこへ捨てた。	タンクトップ型 肌着 前開きパジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	★ベタンと床に座り足を投げ出し、 ○保育者が紙オムツの穴に足を通すと ★自分から立ちあがり、 ○「自分で上げてみようか」と言うとき ★「うん」と言って前から両手で引っ張り上げようとするが、太ももに引っかかり上手く上げることができず、 ○保育者が腰まで上げて履かせた。 ★ズボンを履く際は保育者に掴まり、足を上げてズボンに通し、 ○「自分でしてみようか」と言うとき ★ズボンの腰ゴムの部分を引っ張り上げようとするがうまくできず、不思議な表情を浮かべていた。 ○保育者がズボンを腰まで上げ、前開きパジャマのボタンを「ボタンはこう留めるんだよ」と言いながら一つ留める所を見せ、対象児の両手を持ってボタンと穴を持たせた。 ★穴とボタンとをつまんで動かすが、留めることはできず、すぐにやめ、 ○保育者が留めた。
10日目	悪	長袖肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	○「ズボン下ろす？」と聞くと ★「うん」と言ったが、すぐに「かーさん、かーさん」と言った。 ○「かーさんがするの？」と聞くと ★「うん」と言い、 ○保育者がズボンを下ろした。 ★その他の衣服も自分では脱ごうとせず、 ○保育者が全て脱がせた。	タンクトップ型 肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	★入浴後も機嫌が悪く、 ○保育者がすべての服を着させた。 ★嫌がる様子はなく、スムーズに動いたが、自分でしようとする様子もなかった。

日	対象児の脱衣時の機嫌	脱衣内容	脱衣の記録	着衣内容	着衣の記録
11 日目	良	タンクトップ型肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>★体重計に気を取られてしまい、保育者の声掛けも聞いていない様子だったが、ズボンの腹から両手を入れ、足首まで下ろし「かーさんして」と言い、</li> <li>○保育者がズボンを持ち、足を抜かせた。</li> <li>★紙オムツも同様に手を入れるが、すぐに「かーさん」と言って</li> <li>○保育者が足まで下ろし、脱がせた。</li> </ul>	タンクトップ型肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>★紙オムツは腹まで引っ張り上げようとしたがうまくいかず、</li> <li>○保育者が手伝い、</li> <li>★自分で腹まで上げた。</li> <li>○ズボンは保育者が足を通させ、腰まで上げた。トレーナー型のパジャマも保育者が頭を通し、対象児が袖に腕を通した。</li> </ul>
12 日目	良	長袖肌着 トレーナー 長袖 T シャツ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>★自分から腕を上げ、トレーナー、長袖 T シャツの順で保育者が脱がす。ズボンは腰から手を入れ自分で下ろし、壁に手をつけて足からズボンを抜いた。</li> <li>○「パンツは？」と聞くと</li> <li>★ズボンと同様の動きで脱いだ。</li> </ul>	長袖肌着 前開きパジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン 前開きベスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「パンツは？」と聞くと</li> <li>★床に座り込んで履こうとしたがうまく足に通すことができず、</li> <li>○保育者が足を通し、腰まで上げた。シャツも保育者が頭を入れると</li> <li>★自分から両手を通し、「あしあし」と言って次はズボンを履くことを理解していた。自ら足を浮かせ</li> <li>○保育者が履かせた。パジャマも保育者が腕を通すように諭すと</li> <li>★自分からすつと通したが、ボタンについては意識しなかったため</li> <li>○保育者がボタンを留めた。「最後だけ一緒にしよう」と言う</li> <li>★「うん」と言い、左右の手でボタンと穴の近くを持たせ、</li> <li>○保育者が留めた。</li> <li>★ボタンの穴が気になり、留めたボタンの部分を手でさわりながら「あな、あな」と言う。</li> </ul>
14 日目	良	長袖肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>※3歳のいとこ(男)と、保育者、対象児の3人に入る。</li> <li>★いとこがいるためか機嫌が良く、いとこの脱衣の様子をじっと見ていた。</li> <li>○「ばんごーい」と言ってトレーナーの袖を抜き、頭から脱がせた。</li> <li>★ズボンは自分で腹から手を入れ下ろそうとしたが、太ももで引っかかってしまい、「かーさんして」と言ったため、</li> <li>○足首まで保育者が下ろすと</li> <li>★自分から足を抜いた。</li> <li>★紙オムツはいとこが脱がそうと腹の隙間に手を入れてきたが、うまくぬぐうことができず、</li> <li>○保育者が「自分で脱ごうか」と促すと</li> <li>★自分で腹から手を入れ、足首までおろし、紙オムツを下に置いた状態で足から抜いた。</li> </ul>	長袖肌着 肩スナップボタン式パジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン 前開きベスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>★いとこと一緒にしばらく裸のままだったが、いとこが先に着衣を始めると、衣服を探す様子があった。</li> <li>○「パンツはこうか」と促すと</li> <li>★「うん」と言い、座って足を投げ出したものの、自分でうまく紙オムツの穴に足を通すことができず、</li> <li>○保育者が履かせようとするが、</li> <li>★少し抵抗し、</li> <li>○スムーズに履かせることができなかった。</li> <li>★肌着もあまり着たがらなかったが、</li> <li>○保育者が着させた。</li> <li>★ズボンは足を浮かせ、</li> <li>○保育者が足を通し、腰まで上げた。パジャマを頭からかぶせると</li> <li>★「ボタン、ボタン」と探した。</li> <li>○「ボタンしたいの？」と聞くと</li> <li>★「うん」と答えた。</li> <li>○ボタン式のベストの穴に両腕を通させると、</li> <li>★ボタンを両手で触り「あな、あな」と言った。「かーさんして」と言うので</li> <li>○保育者が3つのうち上の2つを留め、「最後はしてみたら」と言いボタンとボタン穴を持たせたが</li> <li>★「かーさんして」と言ったため、</li> <li>○保育者が留めた。</li> <li>★留めたボタンをしばらく触り、見つめていた。</li> </ul>
15 日目	良	タンクトップ型肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トレーナーは保育者が「ばんさい」と言って頭から抜いて脱がせた。「ズボン脱ぐ？」と聞くと</li> <li>★「うん」と言い、腹から手を入れ、片方だけひざ上までおろし、「かーさん」と言ったが、</li> <li>○「がんばってやってみようか」と言う</li> <li>★下りていた方のズボンを足首まで下ろし、もう片方もおろし、座って両足からズボンを脱いだ。</li> <li>○肌着は保育者が脱がせた。</li> <li>★紙オムツは自分で脱ごうと、腹から手を入れ、足首まで一気におろし、保育者の肩に手を置いて、足を紙オムツの穴から抜いた。</li> </ul>	長袖肌着 肩スナップボタン式パジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン 前開きベスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>★保育者が促しても服を着ることを嫌がり、裸のまま部屋へ走って行ってしまふ。</li> <li>○追いかけ、「パンツ履いて」と紙オムツを差し出す</li> <li>★「いや」と言ってなかなか履かない。しばらくして座って足を投げ出したが、</li> <li>○体が冷え始めていたため、保育者が履かせた。</li> <li>★ズボンも履かずまた走り出したが、</li> <li>○保育者がトレーナーを頭からとおすと</li> <li>★自分で両袖を通した。肩にあるスナップボタンを気にしたが、触る様子もなかった。</li> <li>○ズボンは数分後に保育者が履かせた。ベストを羽織らせ、「ボタンは？」と聞くと、</li> <li>★「あな、あな」とだけ言ったが、その後は興味を示すこともなかった。</li> </ul>

幼児の着脱衣行動に関する考察

日	対象児の 脱衣時の 機嫌	脱衣内容	脱衣の記録	着衣内容	着衣の記録
17日目	良	長袖肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「かーさんして」と言って手を上げ、</li> <li>○頭からトレーナーを脱がせた。</li> <li>★ズボンは腹に手を入れたが、すぐに手を抜き、下ろさなかった。</li> <li>○保育者がズボンを下ろし、肌着も頭から脱がせた。</li> <li>★紙オムツは腹から手を入れ、足首までおろし、保育者の肩につかまり、紙オムツから足を抜いた。</li> </ul>	タンクトップ型 肌着 前開きパジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>★床に座り、足を投げ出し、</li> <li>○保育者が紙オムツの足の部分を通した。肌着を頭から被せ、袖も通させた。</li> <li>★保育者につかまり、足を片方ずつ上げ、</li> <li>○保育者が足を通し、腰まで上げた。パジャマを羽織らせると、</li> <li>★袖に自分から手を通し、ボタン穴をさわりながら「あな、あな」と言ったが、留めようとはせず、</li> <li>○保育者がボタンを留めた。</li> </ul>
18日目	悪	長袖肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「かーさんして」と言って、トレーナーを脱ぐことも、ズボンを自分で下ろすことも嫌がり、</li> <li>○保育者が脱がせた。ズボンは足首までおろし、</li> <li>★保育者につかまり、足は自分で抜いた。紙オムツも「かーさんして」と言って、</li> <li>○保育者が足首まで脱がし、</li> <li>★自分から保育者につかまり、足から抜いた。</li> </ul>	タンクトップ型 肌着 前開きパジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>★紙オムツを履くことを嫌がり、しばらく裸で脱衣所を歩き回る。</li> <li>○「パンツはこう」と促すと、</li> <li>★自分から保育者につかまり、足を浮かせ、</li> <li>○紙オムツの足の部分を広げ、通した。肌着を頭から被せると</li> <li>★自分から腕を通した。ズボンを履くことを嫌がったが、</li> <li>○保育者の膝に座らせ、足を通した。パジャマを羽織らせると</li> <li>★自分から腕を通した。ボタンには興味を示さなかったため、</li> <li>○保育者が留めた。</li> </ul>
21日目	良	長袖肌着 トレーナー 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>★手を自分から上げ、</li> <li>○保育者が腕、頭と脱がせた。肌着も同様に脱がせた。</li> <li>★ズボンの腹から手を入れ、膝下までおろし、「かーさんして」と言ったため、</li> <li>○保育者が脱がせた。</li> <li>★紙オムツも同様に腹から手を入れ膝まで下ろしたが、また「かーさんして」と言ったため、</li> <li>○保育者が脱がせた。</li> </ul>	タンクトップ型 肌着 肩スナップボタン式パジャマ 紙オムツ(パンツ) 長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「ねんねん、いや」と言って着衣を嫌がり、しばらく裸で脱衣所で遊ぶ。</li> <li>○しばらく時間を置いてからすべての着衣を保育者が着させた。</li> </ul>

(2) 着衣

入浴後の着衣内容としては、紙オムツ、長袖肌着、タンクトップ型肌着、前スナップボタン式肌着のいずれか、ボタン式前開きパジャマ又は肩スナップボタン式トレーナー型パジャマ、長ズボン、気温によってはボタン式前開きベストを着用する日もあった。

着衣の様子について、紙オムツについては、保育者が足の部分を広げると、児が保育者の肩につかまり立った状態で片足ずつ通し、そのまま保育者が腰まで上げる動作がスムーズであった。また、児が床に座り足を伸ばした状態で投げ出し、自ら紙オムツの穴を通そうとする姿も見られた。足首を通した紙オムツを、自分で腹へずり上げようとする姿もあったが、太ももの部分で引っかかってしまい、ひとりで上げることはできなかった。

肌着については、保育者が頭からかぶせ、児が自ら袖を通す動きがスムーズにできていたが、やはり脱衣同様、児ひとりでの着衣は難しいことがわかった。

ズボンの着衣については、保育者の肩につかまり片足ずつ浮かせる方法と、床に座り足を投げ出しから通す方法との二つが見られ、これは紙オムツを履く動作と同じであった。

ボタン式前開きパジャマについては、保育者が羽織らせると促さずとも児自ら両腕を袖に通していた。ボタンは保育者が留めたが、児が自分から留めようとする姿も見られた。保育者が意図的に留めるところを見せると興味を持つ様子があり、ボタンとボタン穴を左右片方の手で持たせると、見よう見まねでボタンをボタン穴に通そうとする様子があった。特にボタンよりもボタン穴に興味を示し、指を穴に通し「あな、あな」といった発語もあった。

肩スナップボタン式トレーナー型パジャマについては、保育者が頭を通してやり、児が自ら両袖を通す動きがスムーズにできていた。左肩の位置にスナップボタンがついており、児には留めにくいことからすべて保育者が留めていたが、保育者が留める様子を見つめる、留めた後のボタンを布を引っ張り

覗き込む、「ベッチンだよ」という声掛けに「ベッチン、ベッチン」といった発語をするといったように、興味を持っている様子が見られた。

ベストは数回着用したが、前開きパジャマと同様にボタンやボタン穴に興味を示した。

### (3) 事例から

調査5日目に、保育者が紙オムツに手をかけ脱がそうとした際、対象児から「かーさん、めっ、めっ」といった発言があり、自分でズボンを脱ごうとする様子が見られた。これは、「自分でする」という思いの表れであったと言える。

対象児より「かーさん」、「かーさんして」といった発言がよくあり、その際の様子に注目してみる。まず、8日目にズボンを下ろす途中で「かーさん」と言った。14日目はズボンを下ろす途中太もも部分で引っかかってしまい「かーさんして」との発言があった。また、11日目は紙オムツを自分で足首まで下ろしてから「かーさんして」と、21日目は膝下までズボンを自分で下ろしてから「かーさんして」との発言があった。8日目、14日目に共通していることは、対象児自身が自分で脱衣をしている途中でつまずきがあり、そのタイミングで保育者へ支援を求めたことである。また、11日目、21日目はある程度までズボンの脱衣ができた時点での発言のため、最後にズボンを足から抜く仕上げの部分で、保育者への支援を求めたのだと考えられる。しかし、対象児が自ら脱衣を試みず、すぐに保育者への支援を求めた日もあった。それは10日目、17日目、18日目であるが、この3日間の様子は共通しているとは言えない。10日目は保育者からのズボンを自分で下ろすかどうかの問いかけに対し、「うん」と答えた直後に「かーさん、かーさん」と言い、「かーさんがするの?」と保育者が聞くと「うん」と返答をした。10日目は脱衣時の対象児の機嫌が悪く、18日目は自分自身での脱衣を嫌がっており、この2日間の「かーさんして」の発言の意味は、自分で脱衣をすることが嫌だということであろう。しかし、

17日目は保育者からの声掛けを待たず、対象児自ら「かーさんして」との発言とともに手を上げ、トレーナーを脱がせてほしい様子を示している。これは積極的に脱衣をしようとしているが、上衣の脱衣は対象児ひとりでは難しいことから保育者への支援を求めているのだと言える。

また、15日目は片方の足だけズボンを膝上まで下ろした時点で「かーさん」と言い支援を求めているが、保育者はここでは手を出さず、「がんばってやってみようか」と声掛けをしている。これは、片方の足は膝上まで下ろせていることからもう片方も下ろせるはずと考え、対象児へ促しているのである。すると、対象児は自分自身で膝上まで下りていた方のズボンを足首まで下ろし、もう片方も同様に足首まで下ろしてから床に座って両足からズボンを抜き、ズボンの脱衣を一人で完成させた。保育者が対象児の様子から、手を貸す支援ではなく声掛けでの支援を選択したことが、対象児の自分ひとりでの脱衣への自立を促したと考える。以上のように、同じ「かーさんして」という発言でも、「自分でここまでできたから、お母さんにはこれをしてほしい」、「お母さんにここまでしてもらったら、自分でここからするよ」、「お母さんに全部してほしい」、といったように意味する内容は異なり、その際の子どもの様子や周囲の環境を注意深く見て、子どもの欲求を感じ取り、適切に支援をすることが必要であろう。

次に、14日目の事例を取り上げる。この日は3歳6か月のいとこ(男)とともに入浴し、脱衣から一緒に行った。いとこは脱衣、着衣とも一人ででき、着脱衣習慣が確立している。対象児はいとこの脱衣の様子をじっと見つめていたが、保育者が促すと、自ら脱ごうとする様子が見られ、途中でズボンが引っかかるなどスムーズに脱衣ができなくとも、保育者が少し支援をすればその後も自分で脱衣をする様子うかがえた。また、紙オムツをいところが脱がそうと対象児の腹部と紙オムツの間に手を入れてきたが、それではうまく脱ぐことができなかったため、保育者が対象児へ「自分で脱ごうか」と促したとこ

ろ、対象児が自分自身で紙オムツの脱衣を完成させた。着衣に関しては、しばらくのこと二人で裸のまま脱衣所で遊んでいたが、いとこが一人で着衣をする様子を見ると、対象児も自分で衣服を探すなどの様子が見られた。保育者が促すと自分で紙オムツを履こうとし、うまくいかないところで保育者が支援をしようとする、それに対して抵抗する様子が見られた。これは自分自身で着衣をしたい思いが表れていたことと考える。この日の対象児の特徴的な様子としては、いとこの脱衣の様子をずっとうかがっていたことである。いとこの姿をじっと見つめ、いとこの脱衣の様子を覚えようとしているようにも見えた。また、着衣の際も、いとこが着衣をする様子を見ると対象児も衣服を探したこと、いとこと同じように着衣をしようという意識を持っていることがわかる。自分と年齢の近いことを意識し、保育者とはまた別の関係性を気づいていることがうかがえる。それは、「お兄ちゃんがしているから自分もしたい」、「お兄ちゃんと一緒にしたい」といった思いの表れとも言えるのではないだろうか。

9日目は、着脱衣の流れの中ではあるが、直接的な着脱衣とは別の部分で、特徴的な様子が見られた。紙オムツを対象児が一人で脱ぎ、脱いだ紙オムツを自分でくるくると巻き、紙オムツ用ゴミ箱へ捨てに行こうとしたのである。別室へ行くには廊下に出ねばならないが、廊下の気温が低いため脱衣所に備え付けのゴミ箱へ捨てるよう保育者が示すと、そこへ捨てた。これは、自分の脱いだ衣服をどうするかといった、着脱衣の動作の先の部分に関わってくる様子であると考えられる。

#### 4. まとめ

##### (1) 着衣と脱衣

山下（1970）は、「一般に着衣行動の発達においては脱衣の方が先に発達し、着衣の方が後に発達する」としており、これは、「脱ぐ動作の方がより荒い協応動作を以ってできる」からである<sup>13)</sup>。4本の

先行研究全てにおいても、「ひとりで脱ごうとする」は「ひとりで着ようとする」よりも自立標準が半年早くなっている。今回の調査対象児においても、着衣よりも脱衣の方が対象児ひとりでできる動作が多かった。また、上衣よりも下衣のズボンや紙オムツの脱衣の方が対象児ひとりで脱衣を完成させる様子が多く見られたことから、幼児の着脱衣の自立を促すには、下衣の脱衣から上衣の脱衣、そして着衣、という流れで自立を完成させることが困難さが少なく、スムーズであろう。乙益ら（1996）や布施谷（2000）は、幼児の衣服設計、衣服形態の観点から幼児の着脱衣の調査を行っており、幼児の着脱衣に合わせた適切な衣服の形状を明らかにしている。こういった観点も踏まえ、着脱衣行動を見ていくことも必要であろう<sup>14)15)</sup>。

ボタンなどの装飾については、先行研究から自立は3歳半以降と考えられる。調査対象児もボタンを留めることはできなかったが、保育者の声掛けや、毎日の着脱の中でボタンを気にする様子、留めようと試みる様子は見られ、1歳半以降の段階でも意識付けをすることは可能である。今回は脱衣の際の衣服でボタンのついているものがなかったため、ボタンをはずす行動については観察できていない。ボタンの形状や留め外しの行動についても、もっと検討が必要と考える。

##### (2) 対象児と周囲との関係性

田中ら（1982）は、18か月児の身の自立において「みんなのなかで自分でする」力が育つとしている。また、「明確な目標があり、ともにするなかま、いっしょにすることをほげましてくれる人がいるなかで、自分もしたいという自立心が育つ」としている<sup>16)</sup>。今回の調査対象児においても、毎日過ごしている自宅という安心できる環境の中で、主な保育者である母親とともに着脱衣を行ったことが着脱衣行動へ大きな影響を与えたと言える。対象児が素直に支援を求められ、それを受け止める環境があることが、着脱衣の途中でつまずきを修正し、脱衣を完

成させることへつながると考える。しかし、発言や支援を求める様子が同じだとしても、状況によっては子どもの意図する要求の内容が異なることも今回の調査で示唆されており、支援する側もその都度子どもの発言と様子を良くとらえ、対応することが重要である。また、3歳6か月のいとこと共に入浴した際は、「お兄ちゃんと同じようにしたい」、「お兄ちゃんと一緒にしたい」という思いが働いたことが考えられる。もっとも身近な文化である家族や周囲との関係があるからこそ習慣は身についていくが、「いっしょにする」という姿勢を支援する側である保育者も、そして家族も忘れてはならない。

### (3) 生活の中で

今回は入浴時という一日の中の一部分の切り取りで調査を行った。しかし、生活の中での着脱衣は、気候に合わせて、衣服が汚れた際、生活リズムの中で、といったようにその都度行われる。年齢に合わせて着脱衣の習慣が発達する中で、着脱衣の動作のほかに、脱いだ衣服をどう片づけるのか、着る衣服を自分でたんすから選び取って来るのか、といった前後の行動も出てくる。今回の調査でも、脱いだ紙オムツを対象児自身でゴミ箱へ捨てようとする姿が見られた。これは対象児自身が、衣服を脱ぐこととそれを片づけることが一連の流れと捉えていると言える。一日の着脱衣行動はつながっていると捉え、脱いだ衣服を脱衣カゴへ入れるといった動作もともに促すことで、より自然な形で着脱衣習慣を身につけることができるであろう。

### (4) 今後の課題

今回の調査からもわかるように、着衣よりも脱衣の習慣の方が自立が早いですが、着衣の方から先にアプローチをした場合の自立の過程についても検討の余地はある。また、ボタンなど装飾に注目し、ボタンの形状や位置などを意図的に組み合わせることで、自立の過程への影響があるかどうか、衣服の形状などの観点も合わせて見ていくことも重要であろう。

さらに、生活の流れの視点を持ち、その他の習慣との関係や影響も合わせて基本的生活習慣の自立を検討していくことも課題である。

調査方法について、今回は記録用紙への記入方式で記録を取ったが、今後はビデオ撮影による記録を試みたい。

注)

- 1) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008年。
- 2) 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008年。
- 3) 福田典子「小学校における1学年児童の通学服（私服）の着用実態—着衣形態および着用能力を中心として—」『日本家庭科教育学会第48回大会研究発表会要旨集』、2005、pp. 12-13。
- 4) 藤原康晴、前川輝彦、村岡雍一郎、矢井田修、横川公子『衣生活論』、科学同人、1994、pp. 2-3。
- 5) 斉藤秀子・呑山委佐子『快適服の時代—ヒト・衣服・環境 25話—』ブレーン出版、2006。
- 6) 谷田貝公昭監修『排せつ・食事・睡眠・着脱・清潔 生活の自立 Hand Book』学研教育出版、2009。
- 7) 山下俊郎『保育学講座5 幼児の生活指導』フレーベル館、1970。
- 8) 西本脩「山下俊郎氏による『基本的習慣の自立標準』についての再検討」山下俊郎古稀記念論文編纂会『子ども その発達・保育と福祉』玉川大学出版部、1973、pp. 223-243。
- 9) 西本望「時代の推移にともなう基本的生活習慣の変容」『関西学院大学教育学科研究年報』、第18号1992、pp. 17-59。
- 10) 谷田貝公昭・高橋弥生『データでみる幼児の基本的生活習慣—基本的生活習慣の発達基準に関する研究—』一藝社、2007。
- 11) 山下（1936）については、初出のものを掲載した。
- 12) 「ひとりで脱ごうとする」の自立標準は、山下

- (1936) の調査では 2 歳, 西本脩 (1963) では 2 歳, 西本望 (1987) では 1 歳 6 か月, 谷田貝・高橋 (2003) では 1 歳 6 か月となっている。また, 「ひとりで着ようとする」は, 山下 (1936) は 3 歳 6 か月, 西本脩 (1963) は 2 歳 6 か月, 西本望 (1987) は 2 歳, 谷田貝・高橋 (2003) は 2 歳となっている。
- 13) 前掲 7), p. 284.
- 14) 乙益絹代, 兼子良子, 田北智瑞子「幼児の着脱衣行為自立に関する一考察」『熊本県立大学生生活科学部紀要』第 2 巻 (通巻第 48 巻), 1996, pp. 67-76.
- 15) 布施谷節子「幼児の着脱行動からみた衣服のあきに関する提言」『和洋女子大学紀要第 40 集 (家政系編)』, 2000, pp. 237-249.
- 16) 田中昌人, 田中杉恵『子どもの発達と診断 2 乳幼児後半』大月書店, 1982, pp. 176-180.